

第4次  
飛島村総合計画  
検証シート

## 目次

小中一貫教育の充実	1
地域と連携した学校教育の推進	2
小中学生の心身の健康づくり	3
就学支援の充実	4
学習環境の充実	5
青少年健全育成の推進	6
生涯学習の推進	7
生涯スポーツの推進	8
地域固有の文化の伝承と保護	9
文化施設・体育施設の管理運営	10
社会教育・社会体育団体の活性化	11
図書貸出機能の強化	12
図書館利用者サービスの充実	13
国際交流の推進	14

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-9 学校教育・青少年健全育成

(1)小中一貫教育の充実

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
学園管理事業	109010310	レッツゴー村探検、農業体験、2分の1成人式、職業講話、職場訪問、修学旅行など9年間の一貫した教育活動を通して、生き方学習やキャリア教育を計画的に実施	○	キャリア報告会や職業講話を実施	報告会や講話に工夫が必要である。
教育交流の充実	109010310	中学2年生海外派遣事業において米国姉妹提携都市のリオビスタ市の中学校と相互交流を実施	○	海外研修(リオビスタ市リバビューースクール)中学生との交流会を実施	交流先の中学生と意思の疎通を図ることのできる英会話能力を養う必要がある。
教育振興事業	109010230	企画課と連携して村HPのコンテンツの充実 2名の外国語講師を小学校に週3日、中学校に週5日配置	○	小中一貫教育コンテンツの充実や学園通信の発行、ALTを全授業に配置	視察依頼に対応したコンテンツや資料の充実を図られたが、より一層の英会話によるコミュニケーション能力の向上を図る。
非常勤講師雇用事業	109010340	村雇用の非常勤講師を配置することで、正規職員が県から配分されない専科や重点教科のTT授業、学級運営のサポート	○	1・2・3年生算数、4年生算数・国語の授業に配置	重点教科のTT授業を効果的に実施できるよう検証する。
小中一貫教育検証会議	109010220	小中一貫教育検証会議を開催	○	小中一貫教育に関するアンケートを児童生徒・保護者・教職員・卒業生・在職経験教員に実施し、その結果をもとに検証会議を実施	教委と学園が連携して小中一貫教育を検証するための体制づくりを図る。
給食事業	109010330	地産地消、食育に配慮した給食提供	○	地産地消、食育に配慮した給食提供の実施	地場産物活用割合は、県基準45%を目標値として、食材を調達し、給食に活用する。
ホームページの更新	109010230	学校運営について逐次更新	○	学園行事に関するコンテンツの充実を図った。 更新回数:480回	学園HPの更新回数が増加したが、更なる充実を図る。。
全国学力学習状況調査	109020220 109030220	4月に全国学力状況調査を実施	○	小6は、国語・算数、中3は国語・数学の調査を実施	調査結果を保護者に分析、報告。中学生は、進路説明会で報告した。今後は学力向上に向け村独自の調査結果の検証を図る。
英語教育の充実(小学校)	109010230	教育課程特例校制度を生かした、英語教育を推進 年間:小1(17H)、小2(18H)、小3・4(35H)、小5・6(35H) 小学校における英語科特例校を更新(H27年度～29年度)	○	外国人講師1名 週3日(延べ21時間)×45週 英語能力判定テスト:平均正答率:87%	ALT派遣業者との契約期間(3年間)が満了(H27年度)を契機として、カリキュラムの見直しを図る。
学習プログラムの検討	109010310	飛島学園「学力部会」を中心に授業研究を実施	○	飛島ステップの整備・活用	児童生徒の精神的・身体的な発達段階の特性を考慮し、9年間を通じた系統的・計画的な学習プログラムを展開する。

○今後の取組み方針

小中一貫教育の検証については、学園がスタートして5年目の節目の年に児童生徒、保護者、教員、卒業生を対象にアンケートを実施した。結果としては、開校時に立てた五つの柱(目標)は、概ね順調に進められている。とりわけ、豊かな心の醸成やかかわる力の育成については、飛島村の特性を生かし、より一層の向上を図る。全国学力学習状況調査について、村独自にその結果を検証するとともに、小中の教職員が児童生徒の発達段階の特色やカリキュラムに対する理解を深めることで、一貫校としてのよさがより発揮される学習プログラムの検討を図る。あわせて、文部科学省の提唱するタブレットPCを活用したICT教育についても計画的に推進する。また、小中一貫校を「義務教育学校」として制度化した改正学校教育法が平成28年4月から施行されることから、新制度への移行について検討する必要がある。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-9 学校教育・青少年健全育成

(2) 地域と連携した学校教育の推進

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
学園管理事業	1.09E+08	地域の有識者によるキャリア教育の充実を目指した講演等の実施	○	外部講師(西尾張CATV株式会社)による職業講話を5~7年生対象に実施	子どもたちが将来の生き方について考え、働くことや学ぶことへの意欲向上につながる新たなプログラムを企画する。
キャリア教育の推進	109020220 109030220	臨海部の企業連絡協議会や商工会、農協との連携を強化の実施	○	2年生が村探検を実施し、農協や商店などを探検。5年生が、三菱重工業にてものづくり体験。6年生が職場訪問。7年生が職場体験	西部臨海企業連絡協議会や商工会と連携することで村の産業への理解とプログラムの充実を図る。
同報無線の利用	1.09E+08	下校時の防犯や交通安全への協力を要請する放送の拡充の実施	○	下校時の防犯や交通安全への協力を要請する放送の拡充の実施 利用実績25回	児童生徒を犯罪や交通事故、災害から守るための情報伝達手段として同法無線を活用する。(継続実施)
やすらぎの里への慰問	1.09E+08	中学校1年生が対象、効果的な実施方法の検討	○	中学校1年生がやすらぎの里を訪問し、一緒にはり絵をしたり、歌と手作りのポケットティッシュカバーをプレゼントして、お年寄りと交流した。	村の特別養護施設を訪問し福祉現場の仕事を体験することで介護福祉について理解を深める。
農業体験学習	1.09E+08	小学校3・4年生が対象、効果的な実施方法の検討	○	学区のビニールハウス農家で、トマトの水耕栽培の様子を見学。長島で海苔すきの体験を実施。鉢花栽培農家の見学。	施設園芸等を見学することで地域の農業や漁業について理解を深める。
保護者対象講演会の実施	業務活動 109040120	家庭教育の重要性についての研修会を実施	○	就学時健康診断時に就学予定児童の保護者対象の家庭教育講座を実施	参加者アンケートを参考に講師の選定や講演内容について協議する。

○今後の取組み方針

村の子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくために地域の人々とふれあい、地域の産業や福祉などの現場に出かけ、身近に体験するキャリア教育が、職業選択の視野を拡げ、「生きる力の育成」に繋がっている。そのためには、家庭・地域・学校が連携して、キャリア教育を推進するための協力体制を築くことが不可欠である。また、家庭教育を推進するために保護者を対象に学校教育と青少年教育が連携して講演会等開催するとともに、継続的な情報提供や相談体制の整備、グループの育成、支援が必要である。

第4次総合計画 検証シート

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-9 学校教育・青少年健全育成

(3)小中学生の心身の健康づくり

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
情操教育の実施	109010240	先進事例を研究し、教育機会を拡充	○	小学校4～6年生を対象に、名古屋第一赤十字病院小児保健科部長の講話を聞いた。小学校4年生を対象にNPO法人によるいのちの授業を実施。	情操教育の内容充実に向け、引続き研究、拡充が必要である。
部活動運営指針の策定	109030220	他校の事例を踏まえた検討	○	部員減少により、活動が困難となった部活動の廃止検討。	女子ソフトボール部廃部後の部員数のバランスを配慮する必要がある。
小学校教育振興事業	109020220	安全面を考慮した野外活動、児童劇の実施	○	5月に5年生の野外活動を実施。6月に芸術鑑賞会を5・6年生に実施。	野外活動は自然とふれあう中で社会性や協調性を養い、また、すぐれた舞台芸術は鑑賞することは、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養う上で必要である。
中学校教育振興事業	109030220	安全面を考慮した野外活動、演劇音楽等の鑑賞を実施	○	6月に7年生の野外活動を実施。6月に芸術鑑賞会を実施。	野外活動は自然とふれあう中で社会性や協調性を養い、また、すぐれた舞台芸術は鑑賞することは、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養う上で必要である。
部活動指導	109030220	児童生徒の要望にあわせた部活動の設置と実施	○	5・6年生の部活動への参加・体験入部を実施し、部活動決定の判断材料としている。	潜在的な入部希望者を掌握するために、6年生を対象に部活体験を実施する必要がある。
長距離走	109020220 109030220	小学生5分間走、中学生8分間走を実施	○	12月の2時間目放課に練習(週3回)2学期末に体育の授業時に記録会を実施	心身の発達を養う長距離走に目標をもって挑戦することは効果的な取組みである。
カウンセリングの実施	109010310 109013040	人間関係を保ち続けられるような指導の強化	○	Q-Uアンケートを年2回実施し、講習会をもとに児童生徒への指導に役立てている。中学校はSCとの個別面談を全員に実施。	県派遣1名に加えて村雇用の3名のSCを配置し相談体制を強化、今後は活用方法を検討する必要がある。また、学級運営に効果があるQ-Uアンケートについても継続が必要

○今後の取組み方針

飛鳥学園の教育目標「豊かな心の醸成」と「健やかな体づくり」を達成するために、いのちを育む教室、部活動の活性化、文化芸術に親しむこと、体力と忍耐を養う各種取組みは、重要な取組みとなっている。平成27・28年度の2カ年、1～6年生を対象にした「健康推進指定校」の各種取組みを着実に実施することで施策の効果的な推進に繋がると考える。スクールカウンセラーの配置は、児童生徒、保護者や教師の相談件数は年々増加傾向にあり、子どもたちの健やかな心身の発達を支援するうえで有効である。あわせて、保健福祉課のカウンセラーと連携した相談体制も継続する必要がある。また、Q-Uアンケートについても9年間のスパンで継続的に実施することでより効果の検証を図る。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-9 学校教育・青少年健全育成

(4) 就学支援の充実

○主な取組み

名称	区分	計画	進捗	実績	課題
申請者の審査	1.09E+08	学校と連絡を密にして真に必要なとする家庭が就学支援を受けられるよう審査をもとに決定	○	申請に基づき審査して決定した	真に必要なとする家庭が就学支援を受けられるよう学校と連絡を密にする
受給者へのフォローアップ調査	1.09E+08	学校と連携を図り、受給後の家庭状況の把握	○	該当者はなかった	学校と連携を図り、受給後の家庭状況の把握
教育支援事業	1.09E+08	毎年私立幼稚園または私立高等学校の授業料等を軽減	○	軽減を行った	現行の授業料等を軽減の継続実施
教育支援事業	1.09E+08	学期ごとに経済的な理由によって就学困難な小学生に対し学用品費等の購入を金銭的に支援	○	就学支援を実施	現行の就学支援の継続実施
教育支援事業	1.09E+08	学期ごとに経済的な理由によって就学困難な中学生に対し学用品費等の購入を金銭的に支援	○	就学支援を実施	現行の就学支援の継続実施
対象者への周知	10902021 0 10903021 0	広報、入学説明時、学校を通じ、保護者に対し就学支援の施策について、情報提供を充実する。	○	広報、入学説明時、学校を通じて周知した	広報、入学説明時、学校を通じての周知

○今後の取組み方針

義務教育の円滑な実施を図るため、経済的理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学用品費、医療費、学校給食費等を国の基準に準じて補助している。また、幼児教育の振興を図る観点から、保護者の所得状況に応じた経済的負担の軽減等を図る「私立幼稚園就園奨励事業」を実施しており、国の基準に準じて補助している。あわせて、私立高等学校等に通う生徒の保護者の方の経済的負担を軽減するために、授業料の一部を定額で補助している。これらの補助事業は、対象となる保護者に周知し有効に活用されているが、今後も学校等との連携を図りながら窓口やHPや広報を通して情報提供を図る。なお、就学援助の受給者のフォローアップについては、該当者の有無に関わらず継続する必要がある。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-9 学校教育・青少年健全育成

(5)学習環境の充実

○主な取組み

名称	区分	計画	進捗	実績	課題
施設維持管理事業	1.09E+08	適正な維持管理、大規模修繕の計画的・効率的な実施(特別支援教室改修・増築、吊り天井改修)	○	特別支援教室改修・増築、吊り天井改修工事の設計委託を実施(H27年度施工予定)	適正な維持管理、大規模修繕の計画的・効率的な実施
太陽光発電の新增設	1.09E+08	環境学習のため、また災害時の対策として太陽光発電設備を拡充に向けた情報収集	△	窓口に営業に来た企業からの情報収集を行った	災害時の避難所としての活用について増設の是非を防災担当課と協議する。
体育館棟への空調機の設置	1.09E+08	災害時の対策(避難住民の熱中症等)として空調機を設置に向けた情報収集	×		災害時の避難所としての活用について設置の是非を防災担当課と協議する。

○今後の取組み方針

平成22年4月に開校した小中一貫教育校飛鳥学園の施設維持管理において、児童生徒を災害から守る補修等は必要不可欠であり、今後も最優先に取組む必要がある。なお、学園を災害時の避難所として活用するための太陽光発電設備の拡充、強化及び体育館への空調設備の整備については、防災担当と他の避難所の整備内容と整合を図りながら、実施の是非を判断する必要がある。また、平成27年度に実施する「公共施設等総合管理計画」に基づき、今後の維持管理、補修について計画的に取組み、安全かつ良好な施設環境を維持していく必要がある。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-9 学校教育・青少年健全育成

(6) 青少年健全育成の推進

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
明るい青少年を育てる活動推進事業	109040120	親子ふれあい教室など、家庭教育についての各種事業を実施し、子育てネットワーカーを活用した事業を展開する。	△	親子ふれあい教室では、地元の団体や企業との連携した教室を計画通り年2回開催した。しかし、参加者にばらつきがあった。	ふれあい教室の内容を検討し、魅力ある教室を実施すること。また、子育てネットワーカーを活用した事業を展開する。
平和推進事業	109040135	中学生代表を広島へ派遣し、研修報告会を実施し、学園生徒6名を派遣し、研修報告会を開催する。	○	8月6日に学園生徒6名を派遣、10月29日に報告会を開催。	戦争体験者の話しを聞く会などを開催し、学園生徒や保護者に平和の大切さ、戦争の悲惨さを伝える。
地域づくりコミュニティ推進事業	109040150	新成人を対象に成人式を開催	○	1月11日に成人式を実施。式典後、新成人が企画した懇親会を開催し恩師等を招き歓談を行った。	新成人との内容の打合せ等が重要になると思われるので、早めに代表者を決めて打合せをすることが必要。
青少年健全育成の啓発活動	業務活動	小中学生に標語・ポスターの作成を依頼し、すこやかカレンダーに優秀作品を掲載	○	平成27年度版すこやかカレンダーに優秀作品を12枚掲載。優秀標語の看板を4本作成し村内に設置した。また、クリアファイルを学園生徒に配布。	標語の看板の設置場所について検討を行う必要がある。又、クリアファイルの配布先についても検討が必要。
明るい青少年を育てる活動推進会議	109040120	村や村教育委員会が中心となり、村内の関係機関相互の連携、情報交換により地域の教育力の向上を目指すため、村と教育委員会が主催し、家庭教育推進連絡協議会、青少年健全育成推進協議会、青少年問題協議会の3者合同で明るい青少年を育てる活動推進会議を年1回開催する。	○	7月に家庭教育推進会議、青少年健全育成推進協議会と合同で明るい青少年を育てる活動推進会議を計画通り1回開催した。	地域ぐるみで家庭や地域の教育力を高め、絆を深める活動を進める。
親子ふれあい活動	109040120	親子で参加し、ともに感じ、ともに学ぶ機会を設け、親子の話題作りや絆つくりに努める。また、地域とのつながり深めると共に地位の教育力の向上を図るため親子ふれあい教室を5回開催する。	○	料理、木工、食品サンプル、海苔すき教室及び親子映画鑑賞会を2回開催した。	地域を知り、地域とのつながりを深めるため、地元の団体や企業との連携をした教室を継続する
千羽鶴作製	109040135	小中学生が作製し、広島平和記念公園に寄贈	△	学園9年生が作成した	千羽鶴は出来るだけ学園生徒全員で作成できるようにする。

○今後の取組み方針

地域ぐるみで青少年の健全育成の推進を図るため活動に取組むことは重要である。とりわけ、夫婦共働きの家庭が増え、子育て環境も大きく変わり、家庭教育の重要性が増しています。今一度地域の状況を分析し、課題を整理した上で、子育てネットワーカーやとびまペアレンツ等と連携を図りながら、親子ふれあいを深めるためのプログラムや意識啓発活動、家庭教育講座の内容を検討する必要があります。また、平和推進事業については、中学生の被爆地広島派遣とあわせて村の戦争体験者の話しを聞く会などの企画が必要である。成人式については成人代表者の打合せの時間に余裕を持たせることと、企画立案に主体的に取組んでもらえるような工夫が必要である。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-10 生涯学習・スポーツ・文化

(1)生涯学習の推進

○主な取組み

名称	区分	計画	進捗	実績	課題
社会教育施設活用促進事業	109040155	生きがい学習講座を7講座開催し、社会教育センターの利用促進を図る。	×	生きがい学習講座5講座を実施	毎年、講座内容の見直しを図っているが、参加者が少なく開催出来ない講座もあるので魅力ある講座を開催する必要がある。
生涯学習推進事業	109040140	情報誌「ほうれんそう」、「社教センター通信」の発行	○	ほうれんそうは生涯学習推進員が年2回発行、社教センター通信は3月に発行した	社教センター通信などをもっと見やすい仕様に変更する
文化振興事業	109040140	飛鳥ふるさとフェスタ、菊華展などの村民参加のイベントを開催	○	11月1日、2日に飛鳥ふるさとフェスタ開催し、住民の発表の場とすることが出来た。また、芸術鑑賞会では出演者と学園の生徒有志で合唱を行った。	芸能祭での観客が少ないので集客できる工夫を検討していただきたい
いきがい教育推進事業	109040145	50歳、60歳、70歳を対象とした“年輪のつどい”を開催	△	運営及び進行全般に関して実行委員会で計画検討しており、親睦交流会として成果があった	参加率が低迷していることから、参加周知などの周知方法の検討が必要
夏まつり運営費助成事業	109040165	夏まつりの企画、運営をする実行委員会へ活動費を補助	○	今年度は、雨天の為、体育館で実施した。	荒天及び雨天時の開催の有無についての基準を明確にするためマニュアルの作成をする
イベントの開催	109040140	飛鳥ふるさとフェスタ、夏まつり、菊華展など、住民の余暇意向を反映した行事参加を推進	○	農業祭は161点の参加、健康福祉祭には535人の参加、文化祭には延1,167人が参加した	文化祭では個人の出展が3件と少ないのでPR方法等を工夫し一般参加を増やしたい
広報活動	109040140	村広報や村ホームページによるきめ細かな情報発信	△	村広報に掲載し、ホームページ等で開催の周知を行った	ホームページの活用について検討が必要

○今後の取組み方針

地域の高齢化と多様化する住民ニーズを捉えた生きがい学習講座等を開催するために、アンケートや学識経験者の意見をもとに事業の見直しが必要である。そのために、社会教育主事の配置とあわせ、専門講習等に派遣することで職員の資質向上を図ることが喫緊の課題である。また、生涯学習講座、ふるさとフェスタや夏まつり、いきがい成人式等の地域ぐるみで取組む行事については、事務局主導から住民主導で企画、広報、運営まで取り組んでもらえるような実行委員会になるよう抜本的な見直しが必要である。あわせて、生涯学習ボランティア登録制度の整備も必要となる。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-10 生涯学習・スポーツ・文化

(2)生涯スポーツの推進

○主な取組み

名称	区分	計画	進捗	実績	課題
スポーツ教室開催事業	109050150	トータルエクササイズ教室、少年少女体力づくり教室などの教室開催する。	△	少年少女体力づくり教室は延258名、トータルエクササイズ教室は2回開催で延317名が参加。子ども水泳教室はスポーツクラブへ移行した。	今後は、一般の方を対象にした教室を増やしていく必要がある
総合型地域スポーツクラブ設立	新規事業	総合型地域スポーツクラブを1団体設立する。	○	総合型地域スポーツクラブを1団体立ち上げた。	今後、クラブの運営について注視していく必要がある
各種大会開催事業	109050130	村民体育祭の企画運営や愛知駅伝大会開催に向けての参加支援。毎年1回開催する。	○	村民体育祭を10月の第2日曜日に開催。参加人数は延2,661名。愛知駅伝には監督以下25名で参加	村民体育祭の企画運営について、スポーツ推進委員等を主とした方向に検討をする。又愛知駅伝については選手募集を企業へPRする。

○今後の取組み方針

地域の高齢化と多様化する住民ニーズを捉えたスポーツ教室等を開催するために、スポーツ推進員や生涯スポーツ推進員、総合型スポーツクラブと調整しながらプログラムの見直しや新しいプログラムの企画、運営を検討する必要がある。そのためには、指導者等の養成と職員のスキルアップが必要不可欠であり、研修への派遣や講習会等を開催する必要がある。また、住民主導でオリジナル体操の普及を図るために健康推進事業とスポーツ推進事業の連携が必要であり、そうした取組みが地域への定着化につながると考える。設立から2年が経過し、地域に定着しつつある総合型スポーツクラブについては、中心的プログラムである水泳教室の充実とあわせ体育協会やスポーツ少年団と連携した新規プログラムの開発、自立にむけた人材の育成や指導者の発掘が必要である。また、地域ぐるみで取り組む村民体育祭や各種大会等については、スポーツ推進員や生涯スポーツ推進員が中心となって住民主導の企画運営に向け抜本的な見直し検討が必要である。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-10 生涯学習・スポーツ・文化

(3) 地域固有の文化の伝承と保護

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
郷土資料室維持管理事業	109040420	来場者の閲覧に供するための適切な整理・保存・維持管理	○	11月に燻蒸作業を実施。展示していない資料の整理を実施した。	資料の保存について、調査、計画を作成する。
文化財管理事務事業	109040410	村指定文化財8件の保護	○	文化財8件の維持管理を実施。	文化財周辺の除草、剪定などを定期的実施するように計画する。
地域民族芸能伝承事業 俗	109040430	神楽太鼓をはじめ、民俗芸能を伝承・保存する活動団体の支援	○	神楽太鼓保存会に対しては活動費の助成を行った(2団体)	来年の国民文化祭開催を契機に服岡獅子舞の復活、大宝神楽太鼓の保存会の加入について調査する。
文化財保護審議会の運営	業務活動	文化財の保護及び活用に関する重要事項について調査・協議	△	文化財保護審議会を3月に開催した。	大宝家の寄贈品について調査等を実施する。
大宝排水機場保存館の運営	業務活動	大宝排水機場保存館の維持管理及び見学者への説明案内	○	年4回の清掃委託及び周辺の除草、清掃を実施。本年度は40人の見学者があった。	清掃の回数を増やして周辺の美化に心がけると共に誰もが説明できるマニュアルの作成を検討する。
広報・啓発活動	業務活動	伝統芸能・文化財に関する村広報や村ホームページによるPR	○	海部津島歴史研究会主催による飛島村文化財をめぐるウォーキングを11月に開催した。参加者32名	来年度以降ホームページに文化財を掲載できるように計画する。
文化財等についての教育活動	業務活動	郷土資料室の見学や、村の昔(農業、くらし等)を学ぶ授業の実施	○	小学校3年生が1月に資料室の見学を行った。	今後も小学生の授業に活用してもらえるようにする。また、説明できるようにマニュアルの作成を行う。

○今後の取組み方針

郷土の歴史や文化を後世に伝えるための拠り所となる文化財等が傷んだり散逸しないよう、日頃から保存・保護について高い意識をもって取り組む必要がある。そのために、文化財保護審議会等と綿密な調整を図るとともに、職員のスキルアップとあわせ学芸員等の専門職員の配置が必要である。また、郷土芸能の伝承活動については、服岡獅子舞など活動が中断している芸能に対して、新たな発表の場や交流の機会を与えることで活動再開のきっかけを与える。郷土資料室や大宝排水機場保存館、村指定文化財を内外にPRすることは、村の魅力の発信につながり、新たな発見につながると考える。そのために、郷土学習講座や歴史散歩などの新たなプログラムへの取組みが必要である。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3. 分野別計画

4-10 生涯学習・スポーツ・文化

(4)文化施設・体育施設の管理運営

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
社会体育施設管理事務事業	109050210	体育施設(総合体育館、運動広場、多目的広場等)の維持管理	○	体育施設指導員を配置し、日常管理を行った。南部運動場のフェンス設置工事、大宝サッカー場の防砂対策工事を実施	多目的広場の用途変更について検討してください。また、各施設の今後の維持管理計画を作成する。
渚コミュニティセンター運営維持管理事業	109040230	指定管理者制度を導入した地域サービスの向上	○	平成12年度から指定管理を実施。飛散防止フィルム貼り工事を実施	建築後20年以上経過しているため今後の修繕計画等を作成する。
地区公民館維持管理助成事業	109040240	地区公民館の維持管理及び施設整備等に係る運営経費を15地区へ補助する。	○	15地区の公民館へ補助を実施。1,885千円	今後、津波避難所等を地区の集会施設とした場合の補助について検討する。
施設利用許可業務	業務活動	公民館・体育館・運動広場の施設利用の許可手続き	△	窓口への申請で許可を行っている。ホールについては1年前から仮予約を受け付けることとした。	インターネット等を利用した申請の検討する。

○今後の取組み方針

中央公民館、総合体育館は建設から33年余りが経過し、建物の経年劣化が進行している。そこで平成26年度には非構造部材調査を平成27年度には公共施設調査を実施し、総合管理計画を策定することから、今後これに基づき適正かつ計画的な改修を検討する必要がある。温水プールについても開館以来19年が経過、設備機器の経年劣化に伴う故障が多発し、適宜保守点検、修理を実施してきたが、近年管理運営に支障を来すようになっており、抜本的な改修を検討する必要がある。運動施設、公民館分館についても同様に計画的な改修が必要がある。また、利用者が円滑に施設利用の手続きをできるよう、インターネット予約システム等の導入を検討する。なお、渚コミュニティセンターや地区公民館については、災害時の避難施設としての利用にも対応できるよう地区住民と協議する。そして、平成29年4月に予定されている消費税増税に向け、将来的な利用形態も視野に入れ使用料等の改正について検討する。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-10 生涯学習・スポーツ・文化

(5) 社会教育・社会体育団体の活性化

○主な取組み

名称	区分	計画	進捗	実績	課題
社会教育団体活動費助成事業	109040160	文化協会、婦人会活動や小中学校PTA活動への支援	○	文化協会、PTA活動、地域婦人会活動に対し助成を行った。	地域婦人会活動が1団体のみであるので、PR等をして婦人会活動を増やす。
社会体育団体活動費助成事業	109050160	体育協会やスポーツ少年団の活動を支援する。	○	体育協会、スポーツ少年団及び今年からスポーツクラブとびしまへの助成を行った。	スポーツクラブの運営等に対する助言及び今後3団体の活動について調整する必要がある。
広報活動	業務活動	村広報や村ホームページによるきめ細かな情報発信、学園、保育所、保育園へパンフレットを配布する。	○	ホームページへ各団体の情報を掲載した。また社教センター通信にも掲載して情報を発信した。	ホームページの内容を写真等を使いもっと工夫する。社教通信ももっと見やすいようにレイアウト等を考える
文化協会・体育協会の支援	業務活動	活動の自立、成果発表の場の確保及びホームページ又はチラシなどで活動状況などの報告を実施する。	△	文化協会は、春の祭典を設立当初から行うと共に、県の協会にも加盟し発表会に参加した。	体育協会とスポーツクラブ、スポーツ推進員を含めてフェスティバルが出来ないか検討する。
体育協会・スポーツ少年団事務の支援	業務活動	活動の自立、様々なスポーツの普及、各団体との連絡会議の設置する。	△	スポーツ少年団は親の会を中心に事業を行っている。体育協会は各団体ごとに事業を行った。	体育協会の育成クラブの自立について検討する。

○今後の取組み方針

文化協会はクラブ数、会員数とも横ばい状態にあり、会員の高齢化が進み生きがい活動として定着している中で、若い世代の参加が課題となっている。また、体育協会やスポーツ少年団についても、クラブ数、会員数とも数年来大きな変化は見られないが、平成26年度に設立された総合型スポーツクラブ「スポーツクラブとびしま」との共存共栄が課題であり、社会教育、社会体育プログラムとの調整が必要である。また、体育協会育成クラブの自立に向けた、指導助言体制の整備が必要である。何れにしても、社会教育・社会体育団体が主体的にイベントや大会の主催、会員募集に取組むことで団体の活性化を図り、そのためのボランティア指導者を育成するための勉強会や登録制度の検討、活動をサポートする職員の育成が必要である。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-10 生涯学習・スポーツ・文化

(6) 図書館貸出機能の強化

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
図書館整備事業	109040530	図書資料・視聴覚資料を住民のニーズを踏まえ購入	○	選書基準に従い、複数の職員で選書、購入した。	利用者からのリクエストを受け、相互貸借等を利用し、無駄のない選書購入をする。
保育園・保育所の図書貸出	109040540	絵本や児童書を保育園や保育所へ貸し出す仕組みを構築	×	保育園と保育所へ毎月出前読み聞かせを実施しているが、貸し出しは、していない。	園、所にPRする。幼児への貸し出しは、保護者を巻き込んだ対応が必要。
図書館管理運営事業	109040520	図書電算システム(蔵書管理・検索等)の借上更新・運用等	△	機器立ち上げに、不調がみられた。	不調の原因追究をし、システムの改善が必要なものは予算を確保し改善をする。
図書の貸出等業務	109040540	図書の貸出やレファレンス対応などの充実	○	研修会に参加し、スキルアップに努めた。愛知県公立図書館長協議会主催7回・海部地区公共図書館等連絡協議会主催1回・尾張部公共図書館連絡協議会主催3回・東海地区図書館協議会等主催2回参加。	研修会への参加を継続し、貸し出しやレファレンス対応を再確認し、実践する。
図書館ホームページの管理	109040540	新着図書や、人気がある図書などの情報を発信	○	新着一覧表を毎月1回掲載した。	新着情報を参考に図書館に来館される方もみえるので、迅速な情報提供を継続したい。
機関紙の発行	109040540	「図書館だより」、「きらきら、のびのび通信」の発行	○	毎月図書館情報として、紹介できた。図書館だよりを年4回発行し、きらきら、のびのび通信を年12回発行できた。	色々な情報を入手し、推奨本をよく検討し、紹介する。
図書資料のリサイクル	109040540	古くなった蔵書の有効活用策として住民に無償配布	△	部分的な除籍作業を実施した。一般書4,222冊。児童書779冊。雑誌の無償配布年1回。2,120冊配布。	除籍処理の対象資料は、備品のため無償配布はしない。雑誌の無償配布は継続実施する。

○今後の取組み方針

平成8年4月の開館以来19年が経過し、利用者とともに地域の公共図書館として着実に成長している。更なる貸出利用の増加を図るには、分類・分野別の利用状況やリクエスト、利用者の年齢構成等のデータを分析することで、収集方針や配架方法等を検討する必要がある。あわせて、利用者の利便を図るために平日の閉館時間の延長、夏休み期間(8月)の休館日の設定についても検討する。また、収集方針と連動して除籍、廃棄方針等を見直すことで、限りある蔵書スペースの有効利用を図る。図書館システムについては、愛知県図書館や県内の図書館システムとシステム連携ができる公共図書館ネットワークシステムの導入することで、レファレンスサービス向上を図る。さらに現行のニッパンマーク廃止(平成28年度)への対応としてTRCマークへの移行とあわせ、新刊図書の受入方法の見直しと、学園図書室とのシステム連携を検討する。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-10 生涯学習・スポーツ・文化

(7)図書館利用者サービスの充実

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
図書館活動推進事業	109040540	ボランティアによる読み聞かせ、絵本講座等の開催	○	ボランティアによるおはなし会は充実している。3グループ、年間36回実施を計画通り実施した。参加者数 延520名(子ども含む)	参加者からも好評であるため、ボランティアの方々と活動についての話し合いも行い、今後も継続実施する。
子どもの読書活動推進計画の策定	109040540	子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画策定	×	未実施	図書館単独での計画策定はできないため、教育課や民生部と連携を図って事業を進める。
利用者アンケート調査	109040530	新規購入図書ニーズ、利用者サービスへの満足度を把握	×	未実施。新規図書の購入ニーズは、把握できるが、サービス満足度については調査していない。	利用者層(大人・子ども・親子)ごとにアンケートをとり、図書館のどの部分に活用するかを考えたアンケートを実施する。
図書館業務に関する各種研修への参加	業務活動 109040520	図書館業務についてのノウハウの取得を目的に研修へ参加	○	愛知県公立図書館長協議会主催7回・海部地区公共図書館等連絡協議会主催1回・尾張部公共図書館連絡協議会主催3回・東海地区図書館協議会等主催2回参加。職員・嘱託職員を問わず研修に参加しスキルアップに努めた。このうち2回は技術研修。	積極的に研修に参加出来ており、図書館業務における知識も向上していると感じる。また、図書館アドバイザーを招いて、図書館業務研修を開催する。
ブックスタートの開催	109040540	乳幼児健診時に絵本を介してメッセージを伝える	○	保健福祉課と連携し、年間対象者35名に実施した。	ブックスタートの趣旨を理解し、親子に本の大切さを伝えることが出来ている。今後も事業継続する。
人形劇の開催	109040540	人形劇をとおして親子の絆を育む	○	「おんちよろねずみ経」他 170名参加	参加者に好評であったため、今後も継続して実施する。
読み聞かせ講座の開催	109040540	乳幼児の保護者や、おはなし会のボランティアを対象として実施	○	計画通り親子で絵本講座実施し、読み聞かせの大切さも伝えることが出来た。年6回参加者数 延160名(乳幼児含む)	保護者が読み聞かせを行うことにより、親子のコミュニケーションにもつながる。今後も継続して実施する。

○今後の取組み方針

地域の公共図書館の使命は老若男女を問わず求める資料を如何に提供するかにある。そのためには専門的なスキルを具えた図書館司書の配置が必要である。数年来の主体的な取組みが実を結びつつある読み聞かせボランティア活動を発展させるため、図書館司書の果たす役割は大きい。また、現行のブックスタートを始め保健福祉課、保育園、保育所と連携して実施しているサービスについても引続き重点事業として取り組むとともに、人形劇や読み聞かせ講座等の事業についても、広く周知し、誰もが気軽に参加できるような工夫が必要である。図書館サービスの充実を図るための人材活用を生涯教育の視点でとらえ、生涯学習ボランティア登録制度の整備を検討する必要がある。

第4次総合計画「検証シート」

Ⅲ 基本計画

3 分野別計画

4-17 国際社会・男女共同参画社会

(1)国際交流の推進

○主な取組み

名称	コード	計画	進捗	実績	課題
海外派遣事業「中学生」	109040130	アメリカ合衆国での異文化交流やホームステイ体験の充実	○	サクラメント県人会との交流、リオビスタ市でのホームステイを計画通り実施できた。	姉妹都市交流協会との交流の内容を検討する。
国際交流事業	109040170	姉妹都市のリオビスタ市と交流(ホームステイ受け入れ)	△	本年度は、相手側の都合により来村が中止になった。	来年度に向けて新たな受け入れ家庭などを募集する
広報活動	業務活動	村広報や村ホームページによる事業や活動の紹介	△	村広報や、ホームページに交流結果などを掲載した。	ホームページに登載する時期をもう少し早くする。
海外派遣事前研修	業務活動	海外派遣に必要となる事前研修を実施	○	農業研修以外は計画通り実施できた。JAのライスセンター等の施設見学は日程が合わなくて座学とした。	事前研修の内容について、学園等と相談して内容を検討する。

○今後の取組み方針

平成3年度に始まった中学生海外派遣事業は、今日までに25年が経過、その間住民の約4分1が経験、地域の人材育成に果たした役割は大きいと思われるが、マンネリ化にならないよう、いま一度参加生徒が準備段階から主体的に取り組めるよう、ALTカリキュラムと連携を含め、学園との調整が必要である。平成19年にリオビスタ市との姉妹都市提携に発展し、毎年交流団が来村している。こうした実績を村づくりの視点で分析することで、新たなプログラムづくりと住民主体の国際交流への転換を図る必要がある。そのために、ホームステイ受け入れ希望者の募集方法や住民との交流方法について工夫が必要である。